

神戸市政調査会 第 6 回の議論について

議論のテーマ

「市民自治のありよう」について

前回の議論のまとめ

情報は市民自治の原動力であり、「つながり」や「主体形成」の根本をなす。一方で、デジタル上の情報は「エコーチェンバー」や「フィルターバブル」といった現象を通して、つながりを強めると同時に視野の狭さや分断を進める恐れもある。

若者の社会への関心については「現状を知らない」、「目の前のことへの関心が高い」という状況にある。若者へ社会の現状を伝えることが重要。

公共空間あるいは公共的な空間で社会や地域の課題についてオープンな熟議や議論が行われることにより、社会の現状を市民に伝え・考えてもらう機会を創出するとともに、主体的なつながりの醸成に寄与する取組みが重要ではないか。

第 6 回の議論のポイント

神戸市のリアル・デジタル双方の公共空間に関する取組みを説明。

公共空間を活用した主体的なつながりや熟議の場の形成について議論する。

- ・ 神戸市の取組みに対する評価・分析
- ・ 公共空間のさらなる活用や幅広い市民の参加を促すための視点